

令和7年度

北島南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら考え、判断し、表現できる学習活動
(徳島版読解力の育成・タブレットを効果的に使う授業研究)

校長

遠藤 芳治

学力向上推進員

校長 遠藤 芳治 教頭 佐野 恭子
研修主任 松浦 真紀 教務主任 菅沼 賢輔
1学年主任 松浦 真紀 2学年主任 溝渕 良佳
3学年主任 佐竹 有美 4学年主任 次本 実央
5学年主任 宮本 真吾 6学年主任 松浦 理恵

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職が授業観察を通して取り組み状況を把握するとともに、定期的に行うミニ研修を通して教員間で情報を共有し、次の指

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能が十分に身につけていない。(低・中学年) ●学力の二極化が見られる。 ●聴く力や姿勢の指導が必要である。	(低)・教師や友達の話を体を向け、しっかり聴くことができる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身につける。(全体で8割以上)	・教室掲示の「ききかためいじん」を意識させ、「聴くこと＝相手を大切にすること」だと様々な活動で指導する。 ・タブレットを活用し、個々の課題に合わせた学習をする。 ・授業の導入で読み書き計算の復習できるようにレクリエーションを行う。			
	(中)話をよく聴き、要点をきちんと理解することができる。	・児童に聴いたことを理解しているか問い返して確認する。			
	(高)課題を解くだけでなく、学んだことを友達に教えることができる。	・教科を問わず、児童が互いに教え合う時間を設定する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○表現したいことを見つけ、示された型を用いて自分の言葉で表現しようとする姿が見られる。 ●自分の考えに対する根拠が明確ではない。 ●得た知識・技能を活用し、相手に上手く伝える力・表現方法が身につけていない。	(低)自分の考えをしっかりと持ち、積極的に発信することができる。	・型を提示し、話型を用いた表現を繰り返すことで身に付けさせる。			
	(中)他者の考えを読み取って共感し、自分の考えを伝えることができる。	・ペア学習で、相手の意見を復唱させ、自分の意見を付けるよう指導する。(話型の活用)			
	(高)明確な根拠のある説明をすることができる。	・型を示して、教室や黒板に掲示する。 ・学習したことをもとに、生活にある事象を探す活動をする。 ・教師が関連事象を発信する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に意欲的に取り組むことができる。 ○友達との対話等の関わりから相手の良さを見つけ、それをモデルとして行動することができる。 ●自分から進んで自学に取り組む児童が少ない。 ●受け身で、自分で考えて行動できていない。	(低)自分の課題に気づき、自分のめあてに向かって前向きに学習に取り組む。	・教師がめあてをばつさつと示し、児童が自分に合っためあてを持てるよう指導する。 ・めあてを達成できたか振り返る時間を設定し、励ましや賞賛の仕方を工夫する。 ・教師が評価基準を明確に持つ			
	(中)学ぶ意欲を持ち、自分から行動できる。	・学習活動の見通しをもたせる。 ・学習規律を整え、児童がミニティーチャーになって教え合う。 ・児童が分かる喜びを感じられる授業になるよう授業改善をしていく。			
	(高)学力の低い児童も、学び続ける意欲をもって学習に取り組む。	・面白い授業になるよう教材研究に努め、教師が話術を磨いて授業を楽しむようにする。 ・外発的動機づけをすることで、内発的動機づけにつながるようにする。			